

施策番号 5-1-1	施 策 名	徹底した情報共有と町民参加の促進	基本目標	住民と行政がともに考え未来へつなぐ自治のまちづくり		
			政策名	多くの町民が関わり参加する自治のまちづくり		
	主 管 課	政策推進課	課長名	有澤 勝昭	内 線	213
	施策関係課	総務課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図				結果	
住民と行政が情報共有し、主体的なまちづくりへの参加を促進します。		町民		町民と行政との情報共有を行い、まちづくりに自発的に参加してもらう				町民のまちづくりへの参加意識を高め、町民が主役となったまちづくりを進める	
成果指標	説明	単位	策定時(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標	
① 行政情報の公開や説明責任が果たされていると思う割合	住民意識調査	%	76.1 (R3)	76.0				85.0	
② 行政からの情報発信方法が充実していると思う町民の割合	住民意識調査	%	88.6 (R3)	87				85%以上	
③									
成果指標設定の考え方	①前期計画よりも実績値が下がっており、現状の改善が必要であることから、段階的に85%を目指す。 ②全町民に様々な手法で情報を届ける観点から、85%以上を目指すのが妥当と考え、85%以上の維持を目指す。								

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費（千円）	21,165	22,819			

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2023年度の 成果評価 (基準年との比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した	想定され る理由	②については、町の公式LINEにより町情報の発信を増やしたことにより、目標値85%以上に到達しているが、前年度と比較し、①、②とも、ほぼ横ばいであり、成果は変わらなかった。
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった		
	<input type="checkbox"/> 成果は低下した		
②第5期総合計画 後期実施計画 (2026年度)の最終 的な目標達成状 況	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる	根拠 (理由)	②については、目標値85%以上に到達しているが、①の目標達成に向けては、ホームページのマイナーチェンジ、町の公式LINEのリニューアル、オンライン形式による「めむろ未来ミーティング」の実施などを進めていく必要がある。
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能		
	<input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい		
(2) 施策の成果評価に対する2023年度事務事業総括			
①施策の成果向 上に対して貢献度 が高かった事務 事業	広報事業	②施策の成果向 上に対して貢献 度が低かった事 務事業	
	広聴事業		
③事務事業全体 の振り返り(総括)	・団体別のめむろ未来ミーティングの実施回数は増えなかったが、新嵐山をテーマとしたテーマ別の未来ミーティングの開催により、参加者数は大幅に増加した。 ・令和3年5月から開始したLINE公式アカウントは、登録者数が順調に増加した。 ・対面式の未来ミーティングをイベントに合わせて実施した。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)

担当課 評価	町の行政情報の発信については、ライン・フェイスブックの浸透により、策定時より大きく前進したと考え、「前進した」と判断する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		

A: 実現した                      B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した                      C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した  
D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した                      E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	《施策を取り巻く状況》 デジタル技術を活用した情報共有・町民参加が求められている一方で、対面型のニーズもあり、当面は、両手法を併用する必要がある。 《今後の予測》 自分の好きな時に、手軽な方法で情報を入手する手段を拡大していくことが成果の向上につながるものと考ええる。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	・情報発信については、アナログ的な手法を残してほしいとの意見がある。 ・LINEを活用した情報発信については、評価を受けることが多い。 ・SNSによってターゲット層を変えた発信が必要ではないかとの意見がある

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題)

・広報紙では、詳細かつタイムリーな情報を伝えきれないため、ホームページとの連動が必要である。 ・SNSの積極的な活用とともに、アナログ的な手法も併用し、多くの町民に情報を届けられるように進めていく。 ・LINEについては、町民との情報共有に有効な手段であり、町民視点での全庁的な活用を進めていく。 ・オンライン形式のめむろ未来ミーティングの定例化など、時代に合わせた手法を実施していく。 ・対面式のめむろ未来ミーティングについては、イベント時など、人が多く集まる場所で実施する方法もある。
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	LINEの登録者数の増加やめむろ未来ミーティングの参加者数の増加などから前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	新嵐山をテーマにした未来ミーティングの開催などで住民参加が進んでいると考えられることから、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	・クマの目撃情報など、芽室町公式LINEを登録していない町外者に周知する方法はないか。 ・アナログ・デジタル両面で、置き去りにされないような進め方をしてもらいたい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					